

山田風外 （漢名）新聞記者、狂詩作家。嘉永六年江戸日本橋生れ、大正十二年九月一日歿（一八五三—一九三三）。本名孝之助。別號筆名一柳生、松廬舎華南、柳門生、籟、籟子、籟生、華南、風外狂史、風外老人、風外迂人、風外送夫等。羅紗間屋松葉屋吉兵衛の長子、別家して繪物町に住す。新聞雜誌への投稿を始り、記者、投書家との交際を好み、殊に出版書肆として知名の山城屋箱田政吉と親交。その紹介で成島柳北を知る。明治十一年自宅に開新社を設け、柳北、石井南橋の後援、五世淺草庵の回野侍平、狂詩作家中川柳外、異父兄の狂歌師恭道舎康樂等の助勢を得て『滑稽風雅新聞』のち『風雅雜誌』と改題（を創刊。更し十二年、藤益子と局長を登用して『鳳鳴雜誌』を創刊。その社内出版部舎翠閣を興し、野崎城雄（左文）の『代名士再評』（初編・明治十四年一月二十三日刊）、藤益子の『東銀街小誌』（初編・明治十五年一月二十八日刊）等を出版すると不振、わづかひ『警官必携』なる冊子が利益を上げたりのみならず、その後、十五年の獨力で發刊した『繪入朝野新聞』の失敗、兼て花柳界への豪遊等が財を蕩盡。二十年頃には『繪入新潟新聞』に聘せられ、以降各地を轉り、『前橋のヨロ毛新聞』、『上野日々新聞』には永く筆を執つた。大正に入り歸京、東京横濱の菓子商組合機關誌『精華』を編輯主宰としてゐたが、七十八歳で横死。